

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜山中学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)自ら課題を見だし、より良い解決の学びを深めようとする資質・能力 (2)自分に合う学びを選び、手ごたえを得て学びを改善できる資質・能力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)単元導入時に前単元とのつながりや本単元との位置付けを生徒自身による説明や対話を通して確認する活動の実施【各単元の導入で1回】 (2)ポートフォリオ等を用いて、できるようになったこと、理解が深まったこと、自分に合った学び方を整理し、次の学習への生かし方を記述する振り返りの実施【単元末で1回】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修会
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	・自分の考えを筋道立てて記述する問題に成果がみられた。 ・数学の「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」問題は正答率が5割を超えた。一方、それを支える知識・技能に課題がみられた。 ・英語では日常的な話題や社会的な話題について適切な答えを選択する問題に成果がみられた。 ・国語では、文脈に即して漢字を書く問題と、語句の文脈上の意味を捉える問題に課題がみられた。 ・数学の「関数」「データの活用」、英語の「書くこと」の領域でも課題がみられた。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	・学校が休みの日に勉強する時間や、読書の時間が短く、スマートフォン等によるSNSや動画視聴の時間が長い傾向がみられる。学習時間の確保や読書習慣の定着が課題である。 ・自分で学び方を考え工夫したり学習を振り返り次につなげようとする意識は高い。一方で、考えを根拠を持って表現する力は育ちつつあるが、それを支える知識・技能の定着に課題がみられる。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	さいたま市学習状況調査(令和7年度) <小1～中3>(11～12月)	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	(1)単元導入時の「前単元とのつながり・本単元の位置付け」を生徒の説明や対話で確認する活動は、多くの教科で単元導入時に位置付けて実施している。生徒質問紙では「分からないことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することかできている」と回答した生徒の割合が高く、学びのつながりを自分で捉えようとする姿勢が育ちつつある。 (2)単元末の振り返り(できるようになったこと・自分に合った学び方・次の生かし方の記述)も多くの教科で継続実施している。「学習した内容について、分かった点やよく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」と「自分の考えを発表する際に資料や話の根拠立てを工夫した」と回答した生徒の割合が高い。自己評価は高いものの、授業以外で読書や学習に向き合う時間が短い傾向が見られることから、自ら学びの時間を確保し学びを深められるよう授業改善を継続する。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所